



# 樹蔭静け

北海道帯広三条高等学校  
〒080-2473  
北海道帯広市西23条南2丁目12番地  
TEL : 0155 (37) 5501  
発行日 令和3年6月30日

## 「北海道CLASSプロジェクト」推進校に指定されました！

本校は道教委が進める令和3年度新規事業「北海道CLASSプロジェクト（地学協働活動推進実証事業）」の研究指定校となり、5月27日に事業説明を受けました。

この事業は、地域と学校の連携・協働体制を整備し、様々な活動を通じて「まち・ひと・しごと」と「学び」をつなげ、地域課題探究型のキャリア教育などを推進するものです。指定期間は、3年間。地域コーディネーターを配置することで、高校と自治体や産業界をつなぎ、地域に開かれた教育課程の実現を推進するものとして期待が寄せられています。

昨年度、本校は地域連携研修の指定を受け、探究的な授業の推進について研修してきました。3年選択科目「自己表現」での取組の一環として、生徒が中学校説明会の企画・運営にあたり、帯広市役所や十勝総合振興局の職員の方と地域課題について話し合い、提言を行う探究活動を実施しました。その他にも地域と協働した取組として、小中学校でのインターンシップや十勝総合振興局「ゆるっと未来トーク」への本校生徒の参加がありました。特にインターンシップでは、教員を志望する本校の生徒たちが直に児童生徒と向き合い、指導することを通して、生徒という立場ではわからない教職という仕事についての理解が進みました。



今年度、『自己表現』で市役所と連携した「都市計画を学ぶ」授業を実施しました。

このように、地域との協働を通してより社会に直結した学びがそれぞれの進路希望と結びつくことで、自分のキャリア形成を主体的に行っていくことが期待されます。さらに地域に関わることで、今まで気付かなかったふるさとの魅力や課題に気づき、将来地域を担う意欲につながることも期待されます。このプロジェクトの取組について、これからも学校通信やHPで発信していきます。

## 美術館とコラボ授業



24・25日に3年選択授業「自己表現」で帯広美術館と連携し、「対話型鑑賞」の授業を行いました。この方法は1980年代半ばにニューヨーク近代美術館で開発されたアートの鑑賞法ですが、自分の感覚に気づき、それを表現する力、さらに他者の想いを受容し理解する能力を向上させる取組として、近年、教育の現場でも取り入れられるようになってきています。今回、本校の地域コーディネーターをお願いしている長岡行子さんの計らいで、とかち芸術文化振興機構代表の松井由孝さんから絵画を借入れ、帯広美術館学芸課長の福地大輔さんに授業をしていただきました。生徒たちは自由な鑑賞から新たな気づきを得て、美術作品がぐっと身近なものになりました。今回、松井さんのご厚意で20点の絵画をお借りできたので、昼休みには誰でも鑑賞できるようにしました。お陰様で芸術に触れるよい機会となりました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

## 放送局NHK杯全道優勝

6月16～19日に北見市民会館で行われた第68回NHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会で素晴らしい成績を収めました！

- ◆ラジオドキュメント部門(2-5 堀井さん) 優勝
- ◆テレビドキュメント部門(2-6 鈴木さん) 準優勝
- ◇総合賞 準優勝(53校中)

この結果、2部門で全国大会(7月10日から東京にて非公開データ審査)に出場します。

今年1月29発行の学校通信『きらり』で紹介した二人が見事、優勝、準優勝に輝く快挙。夏休み中、和歌山で開催予定の全国高等学校総合文化祭にも出場予定です。

全国切符獲得！

## 内藤さん(2-4) 陸上棒高跳び全道準優勝

6月15～18日に室蘭市入江運動公園陸上競技場で行われた全道高体連陸上競技大会で、内藤琉杏さんが2メートル80の記録で見事2位に輝きました。この結果、7月28日から福井市で行われるインターハイの出場権を獲得しました。

内藤さんは2年生。高校入学後に棒高跳びを始めて1年弱で全国の切符を手に入れました。今後の成長に大いに期待が持てます。その一つの過程として、全国の舞台を挑戦の場として思いっきり楽しんでください。



本校HPより

## 第13回 探究推進部長 堀口人士 教諭

### 勇気をもって最初の一步を踏み出そう！

#### ◆テニスコーチの経験が自分を変えた

高校の部活で硬式テニスをしていました。後輩にとっても上手いのがいて、道東の大会で彼が強豪を次々と破って決勝で僕と対戦しました。相性がよいらしくなぜかいつも僕は勝ってたのですが、その時も勝って道東チャンピオン。運がいいんです（笑）。その特技を活かして大学でテニスコーチのアルバイトをするのですが、どちらかという人見知り内弁慶だった僕が、初対面でも打ち解けて相手に合わせて会話ができるようになりました。子どもから年齢の高い方までコーチをしましたが、どんどん上達していく姿に、人の成長を助ける仕事っていいな、と思うようになり教員の仕事に就きました。もう少しテニスが上手かったら、そのままコーチを選んだかもしれません。でも今振り返っても、教員としての大事なスキルはこの時に学んだような気がします。

#### ◆親元を離れる勇気、北海道を離れる勇気

高校進学の際に、親元を離れて下宿して高校に通うことを選択しました。そして大学進学する際も、北海道を離れて本州の国立大に進学しました。高校進学の際は、自分の地元で高校がなかったことが一番の理由でしたが、親元を離れるのは当時の自分にとっては、とても勇気があることでした。大学進学の時も、自分は生物を学びたいと思っていたので、学力を考えると道外に出るしかありませんでした。でも自分のやりたいことにチャレンジするのに場所はあまり関係ないような気がします。むしろ、北海道にとどまらず違う世界

に踏み出すことで、視野が広がります。僕も色々な人と出会えて、色んなことを体験することができました。知識として知ることと実際に触れることでは大きな違いがあります。僕のいた茨城・水戸はかなりなまりが強いのですが、テニススクールのフロントで作業していたとき、地元のおじさんが何やらわめき散らすのでなんだかかわからず怖くなって他の人と交替してもらったのですが、その人は「何にも怒ってないし、普通だよ」と言うのです。みなさんにもぜひ茨城ネイティブの会話を聞いてほしいです（笑）。

#### ◆チャレンジする一步をまずは踏みだそう！

僕が今一番チャレンジしていることは、地域とのつながりを持つことです。地域の方々と一緒に三条高校生の探究活動をサポートしていくことをテーマに仕事しています。それが今年度新設された探究推進部の役割の一つです。僕は十勝の出身ではないので、地域の方との出会いが全て新鮮で刺激的です。そして皆さんが魅力的なのです。そんな方々から刺激をいただき、生徒たちが自分の可能性を感じられるように頑張ります。生徒の皆さんも、どんなことでもいいですから、自分でやってみようかな、やってみるとおもしろいかなというようにチャレンジする一步を踏み出してほしいですね。



インタビュー

キラリ

ハンドボール高体連全道大会で3位

男子ハンドボール部主将 3-2 岡田慶哉 くん

三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。



皆さんはハンドボールという競技を知っていますか？展開が早く、接触プレーも多い、やっても見てもエキサイティングなスポーツです。北海道では函館、釧路などで盛んです。三条は全員が高校から競技を始めたチーム。それでも高体連全道大会で見事3位。主将の岡田君は「高校から始めたチームの中ではトップだ」という自負はありました。そうではないチームにどれだけ通用するか。一泡吹かせてやるぞ、という強い思いがありました」と振り返ります。そう意気込んだ準決勝の函大有斗との対戦でしたが、「まず個人の能力が違う、と思いました。初めての対戦で自分たちの方から相手を大きく感じてしまったのかもしれない」と口にしながらも「3年間やってきて成長を感じた試合でした。負けてはしまいましたが、この仲間と最後までやれて楽しかったです。」と語ってくれました。

岡田君は中学は野球部。高校に入学後、新しいスポーツに挑戦したいとハンドボール部に入部。3年生が引退するまではとにかく楽しかったとか。ところが3年生が引退すると先輩は一人だけ。自然と人数が多い自分たち1年生が中心とならざるを得なかったそうですが、なかなか一つになれず雰囲気も悪くなったこともあったとか。そのうえコロナが重なった頃に、岡田君が主将になります。「自分は今まで主将はおろか人をまとめる役割をやったことがなかったんです。初めは何も言えず、ただ自分が頑張れば良いと思っていました。でも色々な方からアドバイスをいただいて自分の甘さに気がきました。嫌われるのが怖かったんです。それからはチームのために厳しいことも言うように努めました。その分、自分も頑張るようになりました。本当に人間として成長できたと思います。」と3年間の部活動に悔いはないと胸を張ります。

後輩たちには「今回の経験で自分たちの立ち位置が見えたと思います。みんなでつぺんを目指してほしい。そのためにはやらされる練習ではなく、一つ一つの意味を自分で考え、納得して練習してほしい」と後輩に全国への夢を託しました。